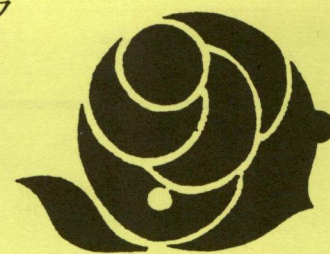


Rosa Formula

ローザ・ブルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター No. 10

目次

巻頭言	1
教養教育ってなんだろう?	1
キャンパス情報	2
茨苑祭へ行こう	4
聞いてほしい私の意見	5
Voice	5
教養教育古今東西	7
掲示板コーナー	8

(平成10年10月発行)

教育とは教師の教育活動だと思ふのは皮相的である。教師のそれと学生の学習活動とが調和して両者の間に「いい関係」が成立したとき、そこに「いい教育」が展開することになるのである。だから、「いい教育」が行われるためには「いい教師」と「いい学生」とがまず存在しなければならないし、双方が「いい関係」を目指して努力しなければならない。

とすれば、毎日の授業において面白くないからといって居眠りをしたり私語をしたりするということは、「いい教育」のための責任を教師だけに求めるということであり、「いい教育」のための学生の側の努力を放棄するということを意味してしまう。あるいは、面白くない授業に出席して、教師を責めながらひたすら終了のベルを待つというのは全くもって時間の浪費だ。

面白くもない授業を教師と学生との間の「いい関係」へと作り替えていくための、学生の側の最も簡単な秘訣を教えてあげよう(私の経験を踏まえて)。それは授業中に教師に対して質問をすることである。授業を中断させるような質問のしかたが結構効果的である。

その時「前に説明したろう」とか「こんな簡単なことが」といって怒り出す教師は多くの場合、「いい関係」を作り出す責任や努力を放棄しているのだから、その授業を捨ててしまおうか、あるいはAをねらわずに単位が取れる程度に付き合っていくしかない。それとも、「いい学生」になるための別の努力を捜すか。

(江幡)

教養教育ってなんだろう?

2カ月におよぶ大学の夏休み後は皆不思議と大学生らしくなる。今年の4月に入学した者が。さて半年間の大学生活を経て大学での目標は定まったのだろうか。教養科目を半年間履修し、その学修意義・目的は分かったのだろうか。教養科目の履修基準が細かに定められており、必要な単位をそろえなければならない。個々の科目名は高等学校とさほど変わらず、特別の意義は見いだされないものなのだろうか。しかし、大学での授業は既に経験されたように、選択できる幅が大きい。自らが勉学に対する課題意識をもたずに臨めば得られる成果も乏しくなる。この辺で、半年の経験をふまえて、教養科目を履修する意義・目標を再度考えてみませんか。

現在日本の経済は不況で、4年次の先輩は苦しい就職活動を強いられましたし、更に今も強いられています。小子化が進行する中で、これからの年金制度を担

う皆さんが将来に不安を抱くこともあるでしょう。明治維新以来築き上げてきた日本の近代化が一定の到達点に達し、現在新たな展開を求められています。この他にも一人の力では解決できない多くの問題があることを御存知でしょう。これらの問題を理解し、一歩前進するためには、社会科学、経済学、政治学等の知識を必要とします。これから、社会の各分野で専門的職業に就かれる皆さんが、これらの問題についての基本的知識と理解力をもつことが、社会的前進をもたらし、その知的レベルが社会のレベルを決めることは明白です。何度でも云うようですが、大学の4年間は時間的にも年齢的にもこれらの知的素養を獲得する上でまたとない貴重な時期です。社会科学に限らず、人文・自然科学等を含めて、各自の課題意識を鋭敏にし、知的専門家としての素養を高めて頂きたいものです。

(横沢)

キャンパス情報

人文学部から

長い夏休みが終わって「学問の秋」が来ました。休みでなまった心と体を鍛えて下さい。

社会科学科では、後学期に1年次向けの「主題別ゼミナール」が開講されます。まだどのゼミナールを受講するか決まっていない人は、第1回目のゼミナールに出席して、担当教官から受講許可を受けて下さい。

人文学科では11月に、2年次以降の専攻コース所属

決定に向けた説明会を予定しています。そののち、実際に所属決定の作業に入っていきます。自分はどの分野に関心があるか、適性からいってどうか、よく考えておいて下さい。

人文学部では3学科とも若干名の転学部・転学科を認めます。希望する人は人文学部学務係に問い合せて下さい。

(渡邊)

教育学部から — 新しい教員免許法に基づいたカリキュラムへ —

教育職員養成審議会の答申を受けて、教育職員免許法の一部を改正する法律等が今年の6月に公布されました。その結果、いわゆる教員免許を得ようとする人を対象とするカリキュラムを、遅くとも平成12年4月1日から、早ければ平成11年4月1日から、実施しなければならなくなりました。

茨城大学教育学部は、来年度に学部の改組を予定し、現在概算要求を出していることもあり、積極的に来年度から新しいカリキュラムで教育を行うことに決定しました。そのために、5月からカリキュラムガイドライン検討委員会を設け、2ヶ月かけてガイドラインを決め、その後は新カリキュラム作成委員会において夏

休み返上の体制で、来年度の新入生に適用される新しいカリキュラムを作っている最中です。その中には、以下のような教育職員養成審議会の提言を具体化する授業科目が含まれる予定です。

- (1) 使命感、得意分野、個性を持ち、現場の課題に適切に対応できる、力量ある教員の養成をねらいとする。
- (2) 大学が、教員養成に対する社会的要請を踏まえ、主体的にカリキュラム編成を工夫できるよう、教員養成カリキュラムを大幅に弾力化する。
- (3) 教職に関する科目を格段に充実させる。

(竝木)

理学部から — これから成績評価は厳しくなるかも —

理学部では7月と8月に入学試験がありました。一つは3年生への編入学試験で、主に高等専門学校からの編入学者を対象に行いました。定員10名のところへ75名の受験希望者があり、48名が合格しました。この方達は来年4月から3年生として入学してきます。仲よく勉強してください。8月には理工学研究科前期課程(修士)の推薦入試がありました。これには各3専

攻10名の定員のところ合わせて80名の受験者がおり、73名が合格しました。推薦入試では学部時代の成績によって推薦の基準を考える傾向が強く、特にDや欠試が多いと推薦の障害になることが予想されます。大学院で奨学金を申請する際も同様です。新聞紙上でも見ているでしょうが、大学審議会というところで成績を厳しく付けるよう求めており、今後は極端に甘い成績

を付ける先生は減少するものと思います。カリキュラムの履修計画も必要にして十分なものを選び、余裕を

もった計画を建てることを勧めます。

(田切)

工 学 部 か ら

みなさんは茨城大学に夜間コースがあることを知っていますか？工学部システム工学科には夜間に授業を行うBコースがあります。Bコースは主として勤労学生および社会人を対象として設けられたものです。授業時間は、午後5時35分から午後8時40分までですが、実験授業の場合には9時を越えることもあるようです。日立キャンパスではBコースの授業時間に合わせて事務部はもちろん生協および図書館も夜遅くまで業務を行っています。もっとも工学部では深夜まで実験を行うことは日常茶飯事です。Bコース以外の学生にとっても好都合です。

Bコースは社会人でも効率的な学習ができるようにカリキュラムが組んであり、基本的に昼間のコースと

同様の知識を身につけることができます。しかしながら、夜間に授業を行うため授業本数が少ないという問題があります。このため、Bコース学生は単位を落とさないように努力しています。

また、先に述べたようにBコースには社会人から勤労学生に至るまで様々な学生が集まっています。それぞれの立場が異なる学生全員に知的な満足感を与えるということは教官にとって非常にやりがいがあることですが、一方では非常に困難な作業でもあります。

Bコースに関する質問や意見があれば工学部教官にいつでも声をかけてください。

(西野)

農 学 部 か ら

前期の試験も終わり、ホッと一息入れている諸君も多いのではないのでしょうか。農学部では、7月27日(月)に試験が終わり、恒例になっている生協学生委員会主催のビアガーデンが夕方6時から行われました。午前中には一時強いにわか雨もあり、美しい前庭での開催も心配されましたが、午後からは幸い雨も降らず、暑さも加わって絶好の夕べとなりました。研究室ごとに先生も加わってグループをつくり、あるいは友達同士で集まって談笑し盛会でした。折しも8月1・2日に行われる「まい・あみ・まつり」の花火大会の試射も隣接する農学部の農場で行われ、ビアガーデンの盛り上がり花を添えました。

阿見町の大きなイベントの一つである「まい・あみ・まつり」は農学部の甲・乙地区を区切って走る通称「茨大通り」を中心に、多彩な催しが計画されていますが、学生用の駐車場には仮設の舞台も設営されます。農学部からも何人かの学生・教職員が実行委員と

して参画し、頑張っています。

前号でお知らせしましたグラウンドは、今年度中は使用せず芝生の養生を行うそうです。従って来年度から使用するという事ですので、1年生の諸君も新しい新緑のグラウンドを使用できます。来年を楽しみにして下さい。

(月橋)



茨 苑 祭 へ 行 こ う !

第 49 回

茨 苑 祭

” 秋 “到来、お祭りの季節です。今年の茨苑祭は、11月21日(土)～22日(日)の2日間で開催します。本部企画としては、参加団体、お客さんが一体となり楽しんでもらえるよう、盛り沢山の企画を実行委員一同、日々検討をしています。

茨大なりの「お祭り」（茨苑祭）の楽しさを十分味わってもらうためにも、皆さん（学生、教職員あるいはそのご家族等）多くのご来場をお待ちします。

第48回（平成9年度）



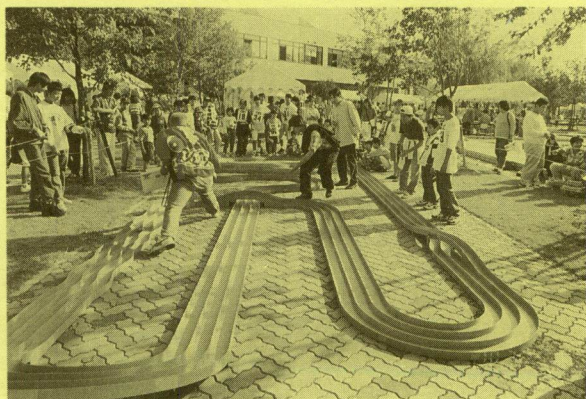
茨苑祭スナップ

[茨苑祭実行委員会]

また、農学部（阿見キャンパス）でも、恒例の“鋤耕祭”が10月23日(金)～25日(日)の3日間の予定で開催されますので、お時間のある方（無い方も）是非参加してみてはどうですか。



鋤 耕 祭
スナップ



聞いてほしい私の意見

斉須真紀子（人文学部1年）

私がこの大学に入学して一番おもしろかった授業は、増田教授の心理学です。なぜなら、私は以前から心理学に興味を持っていたが、高校では学ぶことのできない分野だったからだ。また、心理学という枠を越えて、増田教授ご自身の恋愛体験談などは、大変興味深く、このような、バラエティーに富んだ内容の講義が受け

られるのも、大学の一つの魅力であると思います。

講義の中でも一番おもしろかったのは、「心理ゲーム」です。ゲーム感覚でできる実践的な授業は、お昼ごはんを食べた後の眠い時間帯であってもやる気がおきました。この授業の題目は、「他人を知る、自分を知る」というものだったのですが、文字通り、自分の内にひそむ心理に気付いた18才の夏。

佐藤 映美（理学部2年）

私は演劇研究会に所属しています。今は8月公演に向けて毎日練習をしています。夏休みに入ったため、朝から晩までやっています。練習は、基礎練習として柔軟、筋トレ、発声などをしたあと、会話の練習や、感情解放といったような演技に必要な練習をいろいろやります。こういった基礎さえできていれば、ある程度いい役者といえます。私はというと、上手いものもあれば、下手なものもあり、完璧にできるわけではありません。演劇において、完璧というものはないので、常に上を目指して頑張ります。どんなにいい演技が出来てもそこで満足せず、もっといい演技をするにはどうしたらいいかと考えるのです。

いる役者の気持ちは、今日の前で起こっている本当のものです。観客も役者に感情移入して一緒に笑ったり泣いたりします。役者として、自分とは違う人物になることができ、観客の反応がそのまま返ってくるのは最高の気分です。そして、最後に拍手をもらう時は本当に幸せなのです。

演劇は、日常生活をそのまま舞台にあげて人に見せるものです。だから、舞台上で起こっていることを直接観客に伝えることになります。確かに初めから台本があって、台本通りに話は進みますが、実際舞台上に

この拍手をもらうために、2・3ヶ月前から練習をします。それは、決して楽しいだけのものではありません。時には泣いたり怒ったりしながら、皆よりよいものをつくろうと必死に頑張ります。そんな極限状態を一緒にのりこえた仲間は最高の仲間です。私は今、この大学で、普通に過ごしていたら学べないことを学んでいます。この4年間は絶対に忘れられないものになるはずです。3、4年生になれば嫌でも勉強重視になってきます。それまであと少し、この幸せな時間をみんなで過ごしたいと思います。もちろんそれまでも勉強はやるし、バイトも一生懸命やるつもりです。

V o i c e

教養？ 専門？ 私はこう考える

岡田 仁美（教育学部3年）

教養と専門、両者には、長所と短所が存在する。まず、教養であるが、長所は内容が学部・学科の枠

に縛られることなく、幅広いことだ。授業も多種多様に存在するので、自分の興味あるものを十分に選択で

きる。また、自分が苦手だったり、学んだことのないような分野の授業でも気軽に挑戦することができる。それから全学部を対象とした授業が多いので、他学部の学生との交流ができることも長所の1つだろう。

しかし、逆に考えてみると短所もでてくる。内容が広いと、時間の都合上、浅くしか入りこめない。特に自然の分野は、主に理科や数学を基礎としているので授業によっては高校の時にある程度まで学んでいないと、ついていけないこともよくある。しかし、だからといって基礎からじっくりと学ぶ時間的余裕もない。それから、授業が全学部に開放されているために、人

気のある授業は定員オーバーになってしまい、自分の希望する授業がとれないこともよくある。

次に専門であるが、これは内容がかなり狭くなるが自分のやりたいことを徹底的に追究することができる。私の所属する理科コースを例にすると、理科コースは1、2年で物化生地の基礎的なことを、じっくり学んでから、3年生で、物化生地そして理科教育の5分野の研究室に分かれる。研究室に分かれる前に2年間も理科の勉強ができるので、自分の本当にやりたいことを時間をかけて、見つけることができた。

教養科目はいらない？

須藤 克之（工学部2年）

この原稿が人目に触れる頃には前期試験、夏季休暇も終わり、いよいよ後期が始まろうとしている頃だと思います。1年生の方々はもうそろそろ大学生活に慣れて来たのではないのでしょうか？

さて、1年生の頃、「何故私は文系なのに数学をやらなければいけないのか？」とか「理系だから文系の科目は必要ない」などと思ったことは、もしくは今思っていないですか？（いや、思っていないというその君、少し真面目すぎるぞ）確かに自分と関係ない分野は必要ないかもしれません。しかし、2年、3年とな

って専門科目ばかりやる様になると、他の分野（特に文系の人にとっての理系の分野、理系の人にとっての文系の分野）には目がいけない様になります。そうなってくると物事を自分の専門分野からしか見れなくなってしまいます。そんな時、専門外の知識、考え方が少しでもあれば、又違った角度からの見方が出来るのではないのでしょうか？教養科目というのはその微かな知識、考え方を学べる唯一の機会だと思います。又、それをきっかけに、幅広い見方、考え方を身につけることも大切な事です。

教養教育とは？

天野 克紀（農学部3年）

教養教育とは専門教育を受けるうえで基本となるものであると私は考える。中には教養教育は必要ない、専門教育だけ受けていればよいのだと考える人もいる。かく言い私も水戸で教養教育を受けていたころは同じ意見であった。入学当初はなぜ大学教育には教養教育というものがあるのだろうかとの否定的な考え方をしていた。しかし、阿見に来て専門教育（農学）を受けるようになり専門教育にとって教養教育がいかに重要なものなのか私は気付くようになった。農学とは自然科学であり人間科学でもあるトータルな学問であるといわれる。農学は人文科学や社会科学、自然科学といった教養教育があって初めて完成するということになる。

言いかえれば、教養教育とはあらゆる専門教育を受

けることになってもその分野で活躍できるトータルな視点をもった人間を育成するところにその意義があるように思われる。特に、いわゆる理科系の人間は自分の専門分野に固執してトータルな視点に欠けると批判されることもあって、改めて教養教育の重要性を認識する必要があると思われる。



教 養 教 育 古 今 東 西

豊かな人間性を形成していくことは大学教育の大きな目的の一つだろう。そのためには知的な面のみではなく、道徳的にも芸術的にも、あらゆる面の調和のとれた発展が求められる。だが、具体的には教養を身につけるとはどのようなことなのだろうか。私の知っているある学生は、哲学や社会学・心理学など多様な分野に精通している。それどころか量子力学から映画やアニメのことまで、彼に聞いてわからないことはないほどである。彼はいわゆる「教養」豊かな人物である。だが、彼と話していても、どうも私は彼を教養のある人物とは思えないのである。いったいなぜであろうか。

それは彼にとって知識はいつも自分を守る砦にすぎないからである。知識（情報）は、ときに、他者と出会う際のクッション、他者と直接触れあうことを避ける道具となりうるのである。彼の場合も、知識を媒介することで始めて、他者とコミュニケーションをとることが可能となる。そして生身の自分をその場にさらけ出さないですむのである。クマが冬眠に備えて餌を詰め込むかのように、彼は、これでもかこれでもかと知識を着込んでいく。

だが本来教養が目指していることは、まったく反対のことではないだろうか。その意味で「教養を身につける」という言い方は誤解を生みやすいように思う。教養はプロセスなのであり、結果が大事なのではない。教養とはこれまで人間が創出してきたものと出会うことにより、それまでの狭い自己を壊し、新しい自己を

形成するという主体の再形成の過程なのである。

したがって教養形成のためには自己を解体することが求められる。身につけた教養は結果にすぎない。教養を身につけるということは知識を着込むことではなく、知識が自分のなかに侵入し、自己を犯し解体することを勇気をもって許すことである。裸の自己をさらすことであり、むしろ安定した自己という地盤を揺るがすことを楽しむことである。さあ、どうにでもしてくれと、自己を開いてみせることである。この意味で先の学生は教養を身につけることを避けるために知識を獲得しているにすぎない。

教養を身につけることは自己と出会うことである。守られていない自己と向き合うことを求められるからである。ときにはあまりに薄っぺらな自分に打ちのめされることにもなるのである。だが一方では、自己と出会うことは新しい自分へと変わっていく喜びも与えてくれるはずである。

こう考えると、大学という空間は教養を身につけるにはふさわしい空間であるように思われてくる。ときには落ち込み停滞したり、さらにはわかっていると思っていたことが何が何だかわからなくなるといった逆戻りを味わったりすることが許される空間だからである。停滞や退行は自己形成にとって必要である。是非、勇気をもって教養形成に挑戦して欲しい。

生越 達（教育学部）

教養の意義とその獲得目標

教養というものを雑多な学識として捉えている方々がいるようだが、私は、「雑多な学識」そのものではなくてむしろ「広範な学識を経験することによって培われる高度な精神的装置」が教養ではないかと考えている。言い換えると単なる博識や物知りが教養ではなく、人間の高度な判断能力を構成する主要なものが教養なのではないかと思う。そう考えると教養は人間に

とって一番大切なものであるといえる。教養は何も大学だけで身につけるものではないが、大学はそれぞれの分野の権威が揃っている「最高の学問の場」であるから、やはり大学で行う教養教育は掛け替えのないものであろう。

人間には種々の才能が潜在能力として備えられている。個人の潜在能力を社会の枠組みのなかで才能とし

て開花させるためには、無方向性に発散させるのではなく、ある方向に収束させ、しかも社会と調和のとれた形にすることが望ましい。そのためには、自分と周囲との関係や現在と過去との関係を認識すること、さらに認識の仕方を身につけることが重要となってくる。その際まず、事実とその解釈とを厳密に区別することに注意を払わなければいけない。全ての伝達される事柄が大学での講義を含めて、それを伝える人間の恣意を多かれ少なかれ含んでいるものである。その中から、どこまでが事実でどこからが伝達者の意見であるかを区別しなければならない。特に事実は自分の価値観を創造するための出発材料として大切に扱う必要がある。つぎに事実の解釈（意見）の妥当性・適切性

だが、一貫性・整合性の有無を重要な判断基準とすべきである。転々とする意見は、他の事実・解釈との整合性を欠くために転々とせざるを得ないわけであるから、自らその不備を示しているようなものである。最後に、優れた教養人になるためには理系の方は文系の、文系の方は理系の講義を積極的に受け、色々なものの見方・考え方を知り、それらを吟味すべきである。日本の方々を例えばアメリカの方々と比べると、科学的なものの見方、物事の意義付け、論理性、表現力のいずれもまだ改善の余地を残しているように思う。特に将来社会の主軸として活躍する学生諸君、頑張ってください。

金澤 卓弥（農学部）

掲 示 板 コ ー ナ ー

「教養教育シンポジウム」の開催

大学教育研究開発センターでは、今年度も教養教育シンポジウムを開催します。

今年は、分野別科目（人文・社会・自然）について、授業内容や教育方法に関するシンポジウムを企画しております。

教職員や学生の皆さんの積極的な参加をお願いいたします。プログラム等詳細は、後日掲示によりお知らせいたします。

開催日 平成10年12月2日(水)

時 間 13時～17時20分

場 所 茨苑会館2F（第7・8・9集会室）

なお、終了後、懇談会を開催する予定です。

「教養教育点検・評価」の実施

従来、大学教育研究開発センターでは、授業等についてのアンケートを実施していますが、今年度は、平成8年度改革の検証を目的とする点検・評価を実施します。

このローザ・ブルムラ第10号が発行される頃には、既にアンケート等の実施が行われているかとは思いますが、教職員、学生の皆様方にはご協力方よろしくお願いいたします。

「ローザ・ブルムラ」への投稿

大学教育研究開発センター発行のニュース・レター「ローザ・ブルムラ」も、このたび第10号を数えました。

自由投稿を歓迎しますので、教職員・学生の皆さんの投稿をお待ちしております。

投稿先

庶務部企画室教養教育係

つ ぶ や き

みなさん、楽しかった夏休みはあっという間に過ぎてしまいました。いよいよ後学期開始です！ローザ・ブルムラ第10号です！ご賞味下さい……。今号では、学問の秋を迎えるみなさんに「教養教育とは何か？」という難しいテーマに取り組んでいただきました。学生の立場からの貴重な意見を聞くことができ、教官にとっても大変参考となるでしょう。「私はこう考える」というみなさん、自由投稿を大歓迎します。その他にも、特別企画の「茨苑祭へいこう」をはじめとして、学生の声をこのローザ・ブルムラにどんどん反映させようと考えています。「みんなのローザ・ブルムラ」となるように、学生ならびに教職員の皆様の投稿を心からお待ちしております。

(S. N)

発行日 平成10年10月

発行者 茨城大学 大学教育研究開発センター
水戸市文京2-1-1
029(228)8416〔企画室教養教育係〕